

会員制教育サポート・サービス Premier Edu サポートセンター 新学期を迎えて

新学期が始まりましたが、冬休みはどのように過ごされましたか？冬休みはゆっくり過ごしたというお子様もいれば、今後の成績向上に向け予習や復習に休みを費やしたお子様もいるかと思います。また、この時期は帰国のため編入準備に忙しい毎日を送っているお子様も多いでしょう。保護者の方もそれぞれのお子様にあった方法で、新学期をサポートしてあげてください。

しかし、実際米国で育った保護者でなければ、お子様の米国教育をどのようにサポートしたら良いかと悩むことも多いはずです。そんな時は、是非 Premier Edu サポートセンターをご利用ください。

<渡米したてのお子様へのサポート>

2009 年秋から現地校に通い始めたお子様や、日本から編入したばかりのお子様も、そろそろ学校生活に慣れ、緊張が和らいでくる頃です。しかし、英語や学校生活に慣れたからと言って、それがすぐに成績アップにつながる訳ではありません。お子様の性格や渡米した年齢によっても異なりますが、ある程度問題なく英語で会話できるようになるまでに、通常 1 ～ 2 年かかると言われています。また一般的に、幼児や低学年で米国に来たお子様は英語の習得が早いと言われていますが、それでも数ヶ月で全く英語に不自由がなくなるというお子様はいません。保護者の方が、少しでも早く現地のお子様と同じレベルで勉強ができるようになってほしいと願う気持ちはわかりますが、お子様にはそのプレッシャーを感じさせないように、サポートしてあげる必要があります。

また、英語での会話が多少できるようになっても、読み書きができなければ授業にはついていけません。読解力やネイティブレベルで文章を書く能力を習得するには、さらに時間がかかるので焦らず努力し続ける事が肝心です。その際、米国の学校に通ったことのない保護者の方が、お子様をどのようにサポートしたら良いか分からないというケースも出てくるはずです。日本に在住していても、変化する学校システムや世間の動きに合わせ、お子様の教育をサポートするのは大変なことですが、米国でとなるとさらに苦勞する点も多いでしょう。

<進級するにつれて>

渡米直後は英語の習得に苦勞していたお子様も、ある程度の期間が経つと家族との会話にも英語が増え、日本語力の衰えが目立ってきます。そのため、補習校や塾に通っているお子様も多いでしょうが、現地校の宿題に加え、日本語の宿題

もこなしていくのは大変なことです。保護者の方も、補習校や塾だけにお子様の日本語教育を全て任せるのではなく、多忙な学習スケジュールで発生するストレスを発散したり、日本語を楽しんで使える環境を作るなどして、サポートしてあげてください。バイリンガルとしてお子様を育てるのは、簡単な事ではありません。

また進級するにつれて現地校の授業内容もどんどん難しくなり、希望進路に進むにはどうしたら良いか等、新たな課題も発生します。高校生になると、自分で履修授業を選択し、卒業までに必要な単位を取得しなければいけません。その際、米国の短大や大学でも単位として認められる授業を高校在学中に取得することも可能なので、進路に応じた授業を効率的に選択できるようスケジュールを組むと良いでしょう。

渡米したばかりの頃とは違い、保護者の方はまわりに相談できる方ができ、お子様自身も友達や先生、学校のカウンセラ

